古中だより「坂道」

＜めざす生徒像＞
（知）自ら学ぶ生徒
（徳）礼儀正しく思いやりのある生徒
（体）心身ともに健康な生徒

令和３年度 第３０号
３月１４日　発行

古殿町立古殿中学校
校長　　上野　康生

～ 第４７回卒業証書授与式　４９名が巣立ちました ～

３月１１日（金）、第４７回卒業証書授与式が挙行されました。４９名の卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業生の輝かしい未来に幸多かれと心より祈っております。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度もいくつかの制限を設けての実施となりましたが、春の訪れを感じさせる穏やかな天候のもと、岡部光徳町長様をはじめご来賓の皆様のご臨席のもと保護者の皆様に見守られ、厳粛な雰囲気の中にも温かみのある感動的な卒業式となりました。

ここで、在校生を代表して加藤魁人君（２年生）が述べた送辞、卒業生を代表して穂積美咲さんが述べた答辞、そして校長式辞の中で卒業生に贈ったメッセージを一部抜粋してご紹介します。

＜送辞＞

今、先輩方との思い出を振り返ると、いつも私たちの背中を優しく押してくださったことに、改めて気づきます。二年前、真新しい制服に身を包み入学したあの日、異なる校舎や生活環境に戸惑い、不安でいっぱいだった私たちを、先輩方は温かく迎えてくださいました。また、同じ登校バスの先輩が、バスから教室まで一緒に寄り添ってくださいました。そのおかげで、不安が和らいだことを思い出します。先輩方の優しさがあったからこそ、新しい環境にもすぐに慣れることができました。

私が先輩方と深く関わるようになったのは、生徒会活動がきっかけでした。先輩方は責任をもち、自分自身の役割を果たしていました。常に学校をよくするために工夫を重ねる姿はいつでも私たちの目標でした。委員会活動をはじめとする諸活動においても、委員長を中心にリーダーシップを発揮され、私たちは思い出深い、充実した日々を送ることが出来ました。

先輩方とのたくさんの思い出の中でも忘れられないのは、ともに汗を流した部活動です。コロナ禍で活動が制限された中でも、先輩方は多くの輝かしい成績を残されました。昇降口に掲示される大会結果を目にするたびに、いつかは先輩に追いつきたいと闘志がわいてきます。

特設駅伝では、辛くて立ち止まりそうになったとき、「がんばろう」と声をかけてくださいました。その一言で、また一歩踏み出すことができました。辛い練習の中、真剣に取り組む姿から、部活動への想いを感じることができました。親身になって話を聞いてくださり、励ましてくださった先輩方、教えていただいたことを忘れずに目標に向かって、これからも全力で取り組んでいきます。

私たち全校生に挑戦することの大切さを教えてくださったのは玲瓏祭でした。「Challenge」のテーマのもと、全校生が一丸となって取り組み、大成功を収めることができました。準備を進めていく中で困難なことがたくさんありました。そんなとき、先輩方がリードしてくれたからこそ、素晴らしい玲瓏祭になりました。私たちが大きな感銘を覚えたのは、３年生の合唱です。各パートの歌声が重なり、聞く者の心を魅了する美しいハーモニーでした。私たちにとっても、玲瓏祭は最高の思い出になりました。

学ぶ姿勢でも先輩方は私たちの手本です。各種検定試験や、英語スピーチコンテストに意欲的に挑戦し、素晴らしい成果を残した先輩方はいつも輝いていました。また、進路目標の実現に向けて、授業だけでなく放課後も懸命に努める姿は、努力を惜しまず、取り組むことの尊さや厳しさを私たちに示してくださったのだと思います。

これからの、先輩方の進まれる道は希望で満ちあふれています。もちろん、時には厳しく、大きな壁が待ち受けているかもしれません。どうにもならないときは一度足を止め、休んでください。そこから、また新たな一歩を踏み出すときに、古殿中学校で過ごした三年間の思い出や、友人、後輩、お世話になった先生方を思い出してください。未来を切り開く糧となるよう、私たち在校生も心から応援しています。

先輩方が卒業された後のぽっかりと空いた教室を見るのは寂しく、心細くてなりません。しかし、これまで先輩方が築きあげてきた古中の伝統を私たちがしっかり引き継いでいきます。そして先輩方のように輝かしい歴史の１ページをつくり上げていけるよう、日々懸命に取り組んでいきます。私たち在校生は先輩方の後輩として、この学び舎で共に生活できたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。

＜答辞＞

私たち四十九名は晴れの卒業証書を手にし、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。東日本大震災から今日で十一年。あの頃、四歳だった私たちは大きく成長し、今、それぞれの新たな目標に向かって旅立とうとしています。

思い起こせば三年前の四月、大きな制服に身を包み、私達はこの古殿中学校に入学しました。これから始まる新しい生活に不安と期待を抱き、希望に満ちていたあの時のことが、昨日のことのように思い出されます。

あれから三年。厳しくも温かい先生方や優しい先輩、かわいい後輩たちに支えられながら、充実した学校生活を送ることができました。

そして、誰よりも多くの日々を共に過ごし、様々なことを学び、感動を一緒にわかちあった私たち四十九名は、互いにかけがえのない存在へとなりました。

仲間と汗を流した部活動は、様々なことを私たちに教えてくれました。一人で勝てるほど甘くはない勝負の世界。苦しいことや辛いことから逃げたくなる自分との戦い。上手くいかなく悔しい思いをする日々。今、思うとそんな自分を一番近くで支えてくれていたのが仲間の存在だったのだと改めて気づかされました。三年生最後の集大成である中体連では、今まで頑張ってきた自分のため、厳しい練習も一緒に乗り越えてきた仲間のため、陰で常に支え、見守ってくれていた先生や家族のために自分にできる精一杯を出し切り、後輩たちへ思いを受け継ぐことができました。私自身バスケットボール部に所属していましたが、移籍してチームを離れた自分を受け入れ、励ましてくれたみんなには本当に感謝しています。小学校の時から一緒にバスケをやってきたみんながいなかったら今の自分は強くなれませんでした。この仲間とお別れすることが、今この時も想像できません。私にとってみんなと過ごした日々は、一生忘れられない時間です。

三年生の行事で特に印象に残ったのは修学旅行です。当初は、関東方面の予定でしたが、山梨へ変更になりました。それでも、古殿町とは違った景色や自然、地域の特色に触れることができ、とても貴重な体験をさせて頂きました。コロナ禍ということもあり、なかなか友達と遊べる時間をもてないなかで、私たちのために楽しい思い出が出来るよう考えてくださった、校長先生を始め、学年の先生方、不安のあった私たちを送りだしてくれた家族。みなさんには本当に感謝しています。四十九人全員で三日間とても楽しい時間を過ごすことができました。修学旅行が私たちにとってさらに絆が深まる大切なときとなりました。

そして、「Challenge～仲間と挑戦した日々を～」のテーマのもと、開催された玲瓏祭では、三年生が中心となって活動しましたが、そこに後輩達の力が加わって、全校生が一丸となり最高の玲瓏祭になりました。全校生でチャレンジしたビックアート作成では、本番まで完成した作品が分からないドキドキ感、完成した作品を見た時の喜び、一つの作品をみんなで作り上げたという達成感に包まれました。

クラス合唱では三年生にとって初のアカペラでの挑戦。例年より練習時間が短いことに焦りを感じ、上手くいかないことも多くありました。ですが、パートごとにアドバイスを出し合い、励まし合うなかで、「会場のみなさんに最高の合唱を届けたい」と気持ちが一つになり、本番ではたくさんの人達に感動を与えられるような合唱を披露することができました。私たちは玲瓏祭を通して、各クラスの団結がさらに強くなりました。

三年間みんなと過ごして、本当に笑顔の絶えない毎日でした。困っている友達がいればすぐに助け、悩んでいる友達がいると、話を聞いてくれ、一緒になって悩んでくれる仲間。また、頑張っている友達がいると、一生懸命応援してくれる仲間。それはきっとみんなが互いの努力を知ってるからこそできることだと思います。こんな一日一日が楽しいと思える日常だったのはみんながいたからです。

在校生の皆さん、これまでみなさんと共に歩むことができ、私たちは嬉しく思います。また、みなさんにはたくさんの場面で支えて頂き、サポートしてくれたことにも感謝しています。私達は本日ここを卒業します。これからはみなさんが古殿中学校のよき伝統を受け継いでいく番です。どんなことがあっても諦めず、困っている人がいれば助けることができる人達でいてください。これから入学してくる後輩と共に新しい歴史を築いていってくれることを願っています。

そして、お父さん、お母さん、私達を支えてくれた家族のみなさん。わがままを言ったり、反抗したりと迷惑をかけることもありましたが、今日の卒業式を迎えられたのは家族の支えがあったからです。十五年間大切に育ててくださり、ありがとうございました。

私たちは義務教育を終えて、それぞれの新たな道へ進んでいきます。大きな壁にぶつかり、逃げたくなった時も諦めず、自分達の夢に向かって走り続けます。まだまだ心配をかけることも多くあると思いますが、これからも温かく見守ってください。

最後になりましたが、校長先生をはじめ諸先生方、今まで親身に教え導いてくださり、本当にありがとうございました。いつも陰ながら支えてくださっていた先生方に助けられ、自分の将来と向き合うことができました。とても感謝しています。そして古殿中学校の生徒でよかったと思います。

それでは、私達は思い出深い、この学び舎を旅立ちます。

＜校長式辞＞

イラストレーターの田村みえさんという方が書かれたエッセイの一節です。

これからの人生において、たとえ困難に直面しても、頑張っている自分を信じ、応援してくれる家族や友人、先生方に支えられて、決して諦めることなく力強く自分の道を歩んでいってほしいという願いを込めました。

道はまっすぐなだけじゃない　　でこぼこ道 曲がり道 のぼり坂やくだり坂
道がとぎれて もどることもある　　まよってしまうこともあるけど
そんな時は 立ち止まって ふり返ってみて　　ほんの少しのゆうきで
見えなかったモノ きっと見えてくる　　いらないモノなんて 何もないんだよ
どれもぜんぶ 必要なこと　　早くゴールすることだけが 正解じゃない
歩いたぶん キミの道は太くなり　　なやんだぶん キミの光はあたたかくなる

なお、１１年前の３月１１日、東日本大震災が発生したあの日も中学校の卒業式の日でした。生徒たちは当時２～４歳ということで、鮮明な記憶が残っている生徒は少ないと思いますが、決して風化させてはならないと考えています。学校では、卒業式前日の１０日（木）、地震が発生した午後２時４６分に全校生、全教職員で黙祷を捧げました。改めて、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたします。

～ 在校生から卒業生へ感謝の気持ちを伝えました！ ～

３月７日（月）に卒業式予行を実施したのですが、その後に在校生から卒業生に素敵なサプライズがありました。

２月１８日発行の第２８号で紹介しましたように、２年生は２月に３日間に渡って「一貫張り」を体験しました。３年生が中学生議会で提案した「一貫張り」ですので、ぜひ３年生に作品を贈ろうということで３年生へのプレゼントも作っていたのですが、３年生には秘密にしていました。２年生は３年生のために、心を込めて丁寧に作品を仕上げました。受け取った３年生はとても嬉しそうにしていました。また、２年生からは感謝のメッセージや３年生へのエールが贈られ、とても心温まる場となりました。

受け取って嬉しそうな卒業生

２年生からのエール

完成した作品